

## 高山地区公民館

(鹿児島県日置市)

九州農政局  
プレスリリース資料

—廃校を活用した都市農村交流と美しい農村を受け継ぐ全員参加型むらづくり—



約100年守り継がれる「棚田」



集落毎に体験を提供する秋まつりの開催

## ■ 地区・むらづくり団体の概要

高山地区は、6集落で構成される日置市の最北部の中山間地域で、昭和50年代に県の農村振興運動の表彰を受けるなど、活発なむらづくり活動が続いている地域であるが、平成4年の小学校の廃校や高齢化の進展等を受け、それまでの集落の自治会単位での活動を見直し、平成22年には6自治会が統合し、「高山地区公民館」が発足した。

さらに、地区内の棚田の保全や高齢者の外出支援等を行うため、地区住民全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」を平成25年に設立し、棚田を活用した農業の振興や生活環境の充実を図る活動を行っている。

## ■ 主なむらづくりの取組

## ① 農業生産面

明治後期に開墾された尾木場集落の棚田は、集落の田守人たちによってその美しい景観が保全されており、平成25年度からは、棚田の一部を「NPO法人がんばろう高山」が作業受託するなど、地域ぐるみで営農が継続できる体制が構築されている。

また、棚田の用水路に珍しい在来種のクロメダカが生息していることから、きれいな水で育ったお米「めだか米」として付加価値を付けた販売や、米づくり体験等の都市農村交流に取り組んでいる。

さらに、平成14年からスタートした「高山ふるさと秋まつり」では、地域農林水産物を活かした手作り体験など、集落毎に体験プログラムが楽しめる体験型交流として定着している。

## ② 生活・環境整備面

平成8年に開設した「高山地区交流センター」は、宿泊研修施設を利用する小学生のスポーツ少年団や大学サークルの合宿等の受入等により、その利用者は年々増加するとともに、音楽コンサートの開催や秋まつりへのボランティア参加など地域との継続的な交流へ発展している。

また、過疎・高齢化の進行や独居世帯の増加に伴い、買い物等の交通手段に困っている高齢者に対し、「NPO法人がんばろう高山」を中心に、地域ぐるみで安心・安全な外出を支援する仕組みづくりに取り組んでいる。

## ■ むらづくりの特徴

当地区は、棚田を中心とした農業振興や、各集落の特徴ある資源を活かした体験ができる「高山ふるさと秋まつり」の開催、棚田の農業体験交流、高山地区交流センターを拠点とした研修受入など、継続的な都市農村交流や豊かな農山村の魅力の発信を行っている。

さらに、集落住民全員が参加するNPO法人の設立により、安定した事業運営や高齢者の福祉の充実などを図り、地域ぐるみで住みよい農村生活の向上を目指すなど、中山間地域の不利な条件の中、地域住民が一致団結したむらづくり活動が展開されている。

## ■ 地区データ

○所在地:鹿兒島県日置市 ○総人口:242人 ○農業就業人口:76人

○総世帯数:135世帯 ○農家戸数:49戸 ○主要作物等:水稻、いちご、肉用牛等



棚田での米づくり体験



合宿中の大学生によるコンサートの開催



廃校を活用した「高山地区交流センター」



NPO法人による高齢者の外出支援